

### 面白い種子島の歴史「六眼鏡と山羊の伝来」

西之表市立図書館長 鮫嶋 安豊

安政六年（1859）アメリカの測量船が、住吉村能野沖に錨を卸した。異国人らは解で能野浜に上陸。異国人上陸の急報を受けた赤尾木城の役人が現地へ急行した。乗船していた日本人政吉の通訳で、彼らは種子島の港を測量するためにやってきた船であることを知った。能野の人々は湯茶を提供し、更に鶏肉・焼酎などで温かくもてなした。感激したアメリカ人らは、お礼に六眼鏡と山羊を贈った。この時、種子島の人々は初めて山羊という動物を見て、「犬に似た怪獣」と気味悪く思いながらも、否応なく受け取った。この山羊は仁久と種子島家譜に記されており、食肉用として積み込んでいたものだろう。江戸時代、全島法華宗の島、種子島は、四本足の動物を食する習慣がなかった。丁度、この時、熊野参詣で来島していた松寿院（女の殿様）は、火縄を使わず、一度に六連射する「六眼鏡」に着目し、鉄砲鍛冶らに即刻、複製を命じ、完成させた。この情報を得た薩摩藩は翌年、目附役称寝彦助を派遣し、「藩主島津久光の厳命」として八匁火縄銃50挺を日夜、監督して造らせた。島津久光公は戊辰戦争で上京する藩士らにこの火縄銃を担せ、不慮



山羊は犬に似た怪獣？

に備えた。文久二年（1862）江戸からの帰り、神奈川県生麦村付近で、久光公の行列にイギリス人の騎馬が乱入、薩摩藩士らはこれを殺傷（1名死亡、2名重傷）し、生麦事件が起きる。薩英戦争の端緒となった。ともあれ、400年の歴史を誇った種子島鉄砲鍛冶技術は未だ優秀であったことを示す素晴らしい話である。

# 西之表市史編さんだより



## 『校区史』の調査をご紹介します

### 安城校区

～岡山神社（安城上之町）について～

日本に10万社を超える神社がある中で、岡山神社は実在した人物を神として祀る（人神）数少ない神社の一つです。祭神は、羽生右京能房、妻、愛娘・安姫、その恋人・河野又四郎の四霊です。また、特記すべきは、右京死後370年もたった明治16年（1833年）10月に里人によって建立された神社であるという事実です。無論、神社建立までの間も里人は、隆光山妙泰寺（明治初年に廃寺）や厨子を建立して祭祀し、守り続けたといわれています。右京は、明応2年（1493年）春、第12代島主忠時の命により、屋久島から種子島安城の地頭に補任されました。当初は、立山に居住しましたが、やがて交通の便のよい安城下之町に居を移しています。右京は、領主としての徳に優れ、安城の地を開拓し、善政をしき、その仁徳が庶民に及ぶことが多かったといえます。また、武者修行をして諸国を廻り、武事にも長じていたといわれています。又四郎は、安姫との叶わぬ恋のため非業の死を遂げましたが、島寄せの大関（最高位）でもありました。そのため、神社には昔から勝負事のある度に祈願し、出軍、角力などある時は、多くの村から参詣する者も多かったといえます。境内には、大関「川原嘉助の碑と力石（約103kg）」もあります。力石は嘉助が18歳の時、川脇の浜から2.5kmの道を高下駄をはいたまま、一度も休まずに担いできたものであります。



妙泰寺の石塔群（安城上之町）

小山田 一郎（安城担当）

### ● 種子島人の生活・文化を支えてきた自然を記す ●

### 自然部会 報告

3月7日に鉄砲館で自然部会を開きました。古くからの豊かな歴史や文化がある種子島ですが、それらを支えてきた自然（大地、植物、動物）を人とのつながりを考慮して伝えていくことで、それぞれ精力的に資料収集することになりました。

西之表市で特に魅力的な場として国上の湊川地域があり、東アジアでのマングローブ林の北限地、ヘゴの典型的な自生地として有名です。湊川を特筆する形での調査もそれぞれの分野で実施することとなりました。西之表市も古くからその重要性に着目し、市の文化財（天然記念物）に指定していますが、さらに多様な分野で調査を深めて、その価値を広く西之表市民だけでなく日本の財産として知ることが



湊川のメヒルギとハマジンチョウ

ができるように調査を続けています。また、これまであまり記録の少ない馬毛島についても、自然部会では計画を立てていますが、現在まで土地の所有者の理解が得られていません。

西之表市民の財産として現況を調査記録することが望まれます。

< 自然部会長：寺田 仁志 >

### ～鞍勇の話～

### 下西校区

下西とは下西之表であり、現在川迎・壺泊・池野・上石寺・下石寺・鞍勇・若宮の7集落から成ります。今回は、鞍勇にまつわる歴史と人物

を取り上げたいと思います。鞍勇は移住集落で、昔は大山崎や正泉坊と言われていましたが、道が悪く馬の鞍が揺れることから柳田道彦神主の命名と聞きます。鞍勇のグラウンドには石碑が3つ立っています。大正2年建立の「甌島移住記念碑」には、明治17年7戸が甌島より移住して、大正2年には18戸になったとあります。また昭和61年建立の「創設百周年記念碑」には昭和30年に種子島初の国会議員として当選した有馬輝武氏について書かれています。有馬氏は農林省に入り全農林組合執行委員長となり、昭和30年鹿児島3区より左派社会党公認で出馬し当選したそうです。最後に、昭和40年建立の「牧瀬傳吉記念碑」には、「明治24年養蚕の為大山崎を開墾す」とあります。傳吉は東町の人、県議で鞍勇の開祖ですが、明治28年に33歳の若さで亡くなります。父は牧瀬権右衛門で中割の生姜山は、この権右衛門が生姜を栽培したからその名がついたといえます。私が上石寺の長老から聞いた話では



創設百周年記念碑文（下西鞍勇）

当時鞍勇付近は上・下石寺の塩屋牧地であり、これを権右衛門が買い上げて鞍勇の人たちに分けたそうです。また、明治時代に甌島から移住してきた当時、鞍勇にはシカだけでなくサルやイノシシもいたと鞍勇の長老から聞いたことがあります。

石原 仁（下西担当）

## 国上校区

### ～神武天皇の父（ウガヤフキアエズ尊）を祀る島の探検～

小島は、現在も広葉樹が繁る密林で、市指定「ヤッコ草」の自生地でもあります。昔から神聖化された神山と呼ばれ、人々が山に入ることさえ禁じられてきましたが、浦田神社の願成就の焚火には、小島の薪木が年一回だけ使われたということです。小島に関しては、以下のようなこと等が伝わっています。①山の中央部の平坦地に「笹の社（浦田神社以前に祀られていた神）」が祀られていました。②稲作を伝えたウガヤフキアエズ尊を「浦田大明神」として崇め奉り、神殿を造営しました。③笹の社が祀られていた場所の西方に、ウガヤフキアエズ尊が洋上遙か日向の鶴戸の地を望んで遥拝した大岩の高所があります。④小浦に通ずる山道に三基の墓石があります。小島は、信仰畏怖の対象とされ現在まで未調査であったため、国上校区市史編さん委員会ら10数名で令和2年3月15日に調査を行いました。頂上当り密林に「ヤッコ草」のもととなる椎の大木を数本確認できました。また、山の中央部を下り、浦田湾に面したところに平坦地があり、「笹の社」や「浦田大明神」の祭礼が行われたのではないかとされる場所や、鶴戸を遥拝した岩ではないかという大岩を確認しました。しかし、祠や神殿、礎石の跡は確認できませんでした。浦田神社の台帳に、「笹の社の宮殿には、玉笹アリ」という記事があることから竹山も探しましたが、細い数本の竹が見つかる程度でした。また、三基の墓石は確認できなかったため、ヤッコ草が見られる秋頃に再調査を行いたいと思います。



集落から見た小島（国上浦田）

長野 勝（国上担当）

### ～確かな歴史をつないできた上西～

## 上西校区

上西には、地元の人も詳しくは知られていない歴史が確かに息づいています。種子島家譜に「第一に大崎…」と記されている塩づくりが、かつて大崎の経済を豊かにし、集落の結束を固めました。花里崎には藩内随一の経済学者でありながら遠島にされた久保之正の石碑があり、三年後は没後200年を迎えます。ほとんどが神道である上西において、唯一全員が法華宗徒である池之久保にはりっぱな曼荼羅が歴代の集落長に伝わっており、祈禱祭でお披露目されます。成高山に伊勢神社を頂く大花里には学校、消防分団も置き、信仰・文化の中心地です。栖林神社の流れをくむ弓矢八幡神社が栢之峯にあり、毎年二月に実際に弓を射る弓場祭が行われます。室町時代から続く古式豊かな盆踊りを受け継いでいるのが横山です。江戸時代に遠島になった比志島國隆と愛妾千代女の悲恋物語はこの盆踊りに組み込まれて、国が記録保存等の措置を講ずべきと選択された文化財になりました。

私が取材で校区内を巡ると、喜んで応じてくださる高齢者の笑顔に気持ちが和みます。笑顔の理由は、取材の折々で思い出がよみがえり、自分の来し方と歴史とを重ねながら語ることができるからでしょう。また、これから生きる元気と勇気を与えてくれるからでしょう。青壮年のみなさんには、学んだ上西の歴史が新しい時代を切り開く礎となることを、この市史編さん作業に期待します。市民のみなさん、完成された西之表市史をどうぞ楽しみに。



千代女の墓碑（上西横山）

馬場 信一（上西担当）

### ～平安時代へのワープ～

## 現和校区

本校区には、明治百年記念事業として編集された『現和の郷土誌』が残されています。郷土誌は、約200ページに及ぶ貴重な資料です。これを参考にして校区の方々と共にその内容や場所、史跡や郷土芸能等の現状を確かめ合い、理解を深めながら後代につなげられたらと願っています。そこで、校区・各集落の役員に次のことをお願いして資料を集めています。①歴史・あゆみ・特長などを教えてください。②伝説・歴史的な出来事などを教えてください。③珍しい地名・字名や史跡・神社・お寺などを教えてください。

ところで、元市長名越不二郎氏は、郷土誌の序文で次のように述べておられます。「古来、西之表市の農業経済を担ってきた所が湊川水系であることは周知のとおりであります。その水系の要をしめて、発展の原動力となったのは、実に現和であります。」

この一文にヒントを得ながら現和の歴史についての先人の研究や「湊川水系」を調べていると、次の課題に近づけるような感じがしてきます。①「吉平村」「見和村」「現和村」の呼称や範囲は異なるのではないかと。②「現和集」で発掘された「ヒスイ」製品の意味するものは何か。③西俣・武部の高台にあった台運院坊から発掘された猿投窯の灰釉瓶には、現和のどのような歴史が秘められているのか。



種馬朝高號・種牛北楓號の碑（現和屋仁吾）

現在、湊川水系の発展の歴史を想像しながら、上流の横山から、平田・本立・石堂・近政・川氏・西俣・武部に至る大小の谷間を上ったり下ったりしています。

石園 一郎（現和担当）

### ～種子島と西南戦争～

## 榕城校区

私は、神社を見て廻ることを趣味としています。生活習慣病対策として身体を動かす、歩くということから始めたものですが、神社というものが地域の人々の信仰の場であることから、そこは歴史と民俗とが交叉する場所でもあるように思われます。

境内には、いろいろな石塔、石碑が建てられています。その中で多いのは、日露戦争記念碑と並び、鹿児島では丁丑の役、明治十年戦没とも呼ばれる西南戦争の記念碑です。戦没勃発の原因は諸々でしょうが、蹶起の理由そのものは、「政府に尋問の筋之有り」という、大義のない、結局は西郷の私怨でしかなかったように思われます。西郷軍の中心は城下士族で、これに多くの外城士、郷士が参加していました。種子島士族四百余名も加わり、百余名が島に帰ることができませんでした。城下士族の突出した動きに、なぜ外城士も多く参加したのでしょうか。種子島郷士については、本土の外城士とはまた違った状況もあるように思われます。麓集落の人々にとっては、生死をかけた大事件であり、出陣への賛否など真剣な議論もあったでしょうが、不平士族の叛乱と呼ばれるとおり、島の農工商の人々にとっては、無関係のことであり、結局は士族社会というコップの中の嵐に過ぎなかったようにも思われま



玉川招魂碑（東町公民館横）

す。可能であれば、蹶起反対の姿勢を持ち続けながら、出陣した桑山定芳の戦後の活動をも見る中で、反対者の人々の明治維新に対する意識を見てみたいものです。また、地所論まで含めた士族の解体を眺めてみたいものです。

【註】 檜原 英伸（榕城担当）

【註】 地租改正に伴う旧士族と農民間の土地争議